

#### 4. 地区の現況

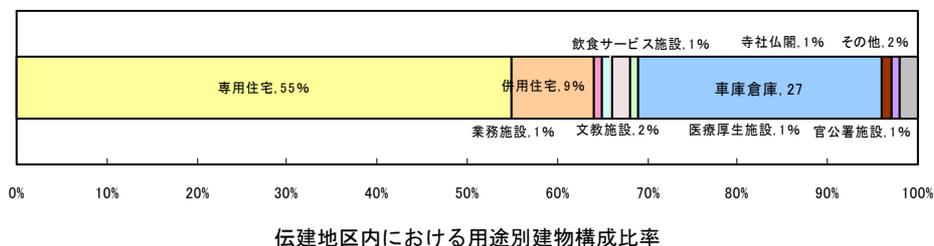
---

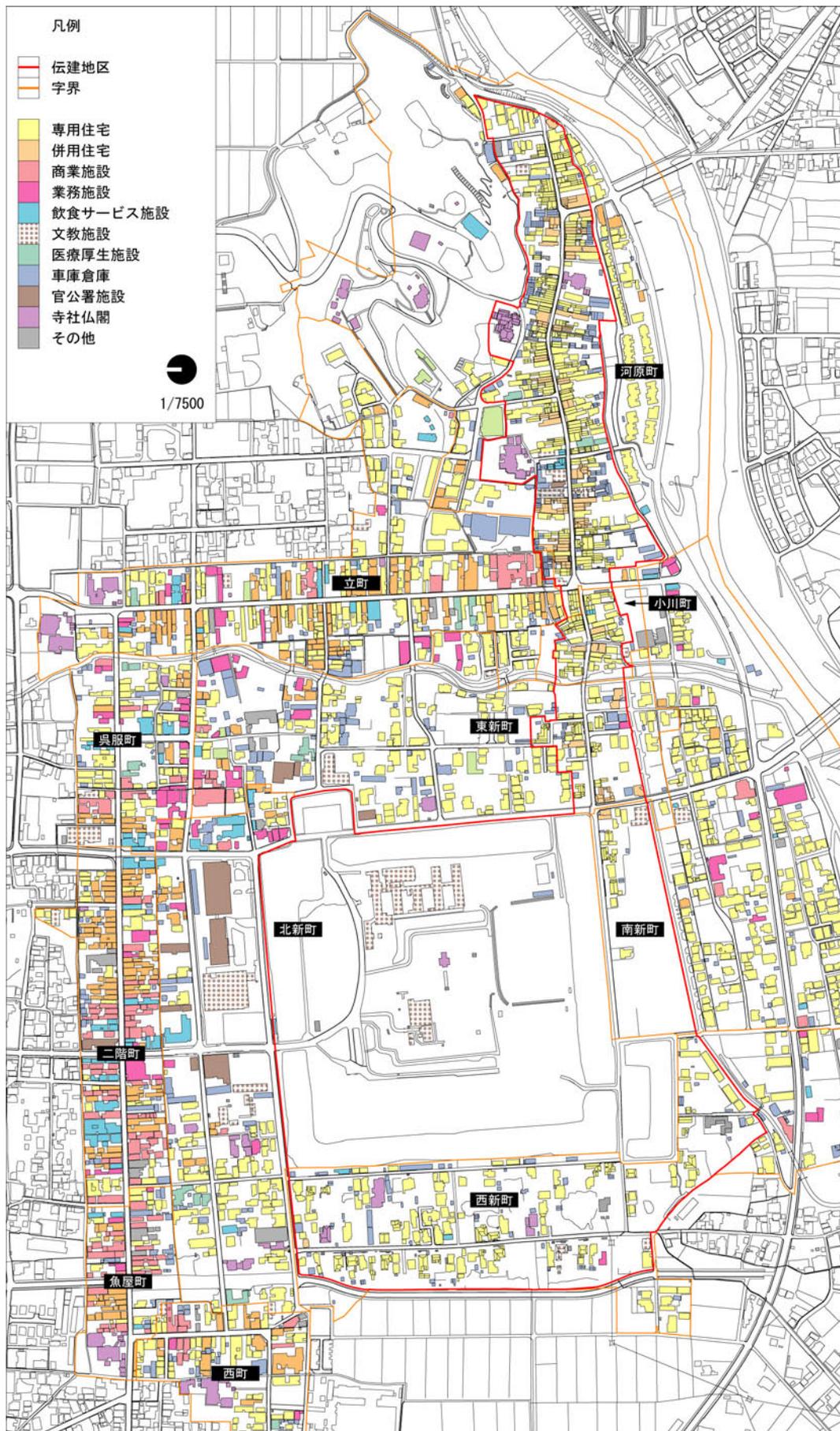
## 4.1 用途別建物分布

用途別に建物の分布を見ると、旧武家町（東新町、西新町、南新町、北新町）では専用住宅が広く分布しているのがわかる。また、篠山城跡の周囲では各住宅の敷地が広く、ゆとりを持って建物が配置される。一方、旧黒岡川より南の地域では専用住宅が一定の密度を持ち分布し、篠山山南線沿いには業務施設や商業施設の分布も確認できる。なお、北新町では篠山城跡やその北側に官公庁や文教施設が集積しており、篠山市のシビックゾーンを形成する。

旧商家町（河原町、小川町、立町、呉服町、二階町、魚屋町、西町）では、店舗併用住宅や商業施設の用途を持つ各建物が通りに沿って高密度に集まり、商店街を形成する。中でも、二階町や魚屋町には商業施設や業務施設、飲食・サービス施設、店舗併用住宅が混在するように立地し、現在の城下町の中で商業地として特化した地区となっている。

伝建地区内では、旧武家町、旧商家町ともに、専用住宅を中心とした、住宅地としての性格が非常に強くなっている。旧武家町では、敷地が広いことにより、戸建て住宅を中心とするミニ開発が行われた場所もある。一方商家町では併用住宅や商業施設は減少し、専用住宅が増加傾向にある。





用途別建物分布図

## 4.2 構造別建物分布

構造別に建物の分布を見ると、城下町全体に木造住宅が広く分布していることがわかる。

旧武家町においては、外堀周囲に伝統的な木造土塗の家屋が点在する。中でも西新町御徒士町通には、伝統的な家屋が10棟立地し、歴史的な景観を形成する。しかし近年にかけて、東新町や南新町の保存対策調査地区外では大きな宅地を利用した新規宅地の開発分譲が数カ所で行われており、新建材による新しい住宅の分布も多数確認できる。なお、旧黒岡川以南ではこのような住宅がまとまって分布し、西新町南馬出南側や篠山南線周辺には一定の規模を持つ新規のアパート等も確認できる。また、北新町に集まる公共施設は鉄骨造や鉄筋コンクリート造による大規模な建物が多い。

旧商家町では通りに沿って、各町木造土塗の伝統的な家屋が数多く集積する。特に河原町では、木造土塗の伝統的な家屋の集積度が非常に高く、歴史的な景観が形成される。一方、現在の商業の中心地である二階町や魚屋町では鉄骨造等の非木造建物の分布が多数見られ、現存する伝統的な家屋でも、多くが現代的な材料を用いたファサードの改修が行われている。また商家町全体において、細長い敷地の形状から、通り表側の伝統的な主屋とは別に、裏側に新建材による新規建物を建築するケースが頻繁に見られる。

### 茅葺建築物写真



西 1



西 2



西 3



西 4



西 5



西 6



西 7



西 8



西 9



西 10



西 11



西 12



西 13



南 1



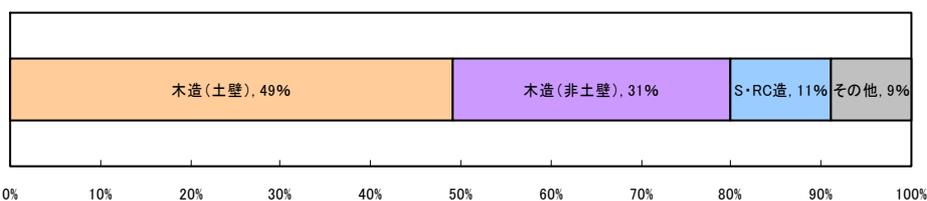
東 1



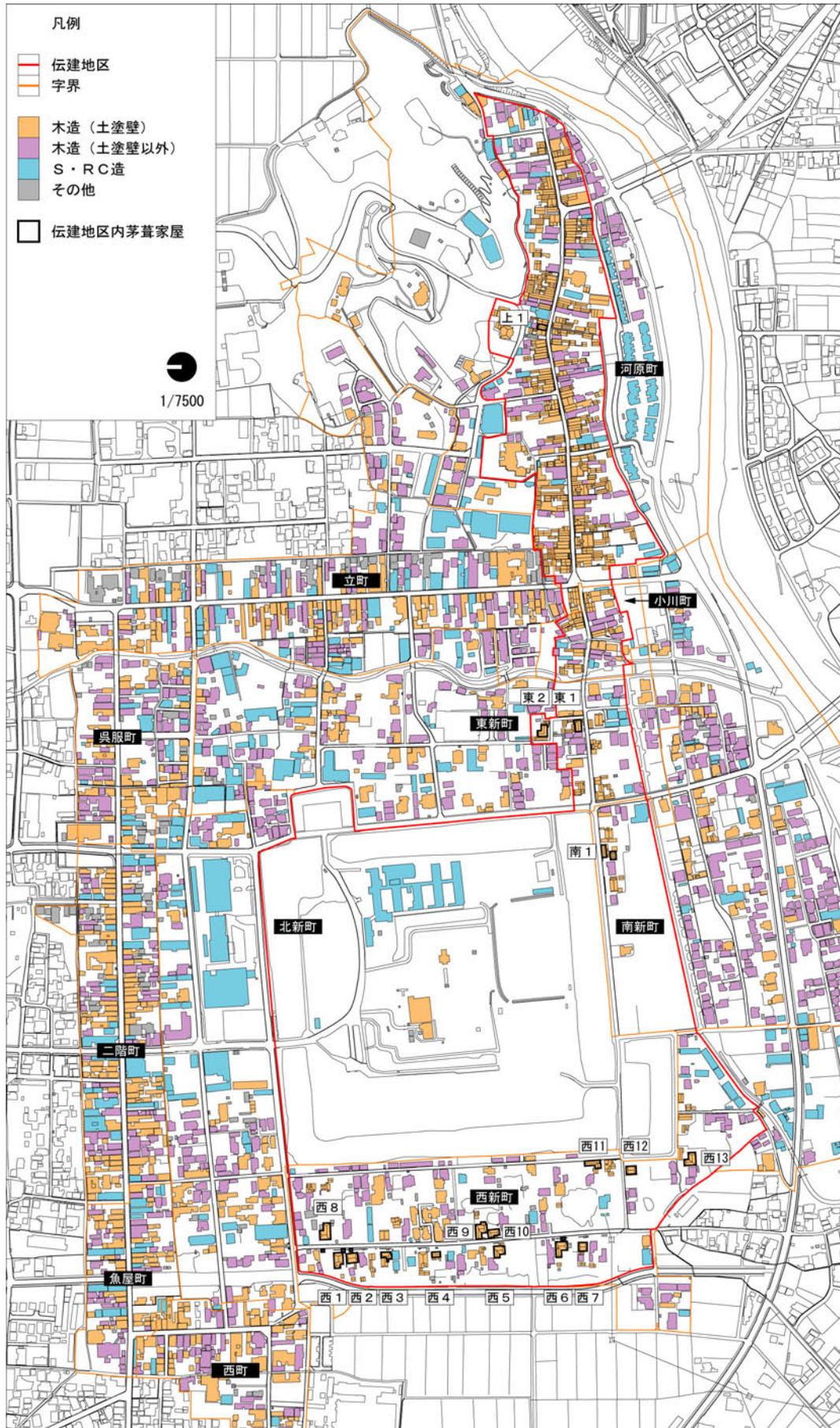
東 2



上 1



伝建地区内における構造別建物構成比率



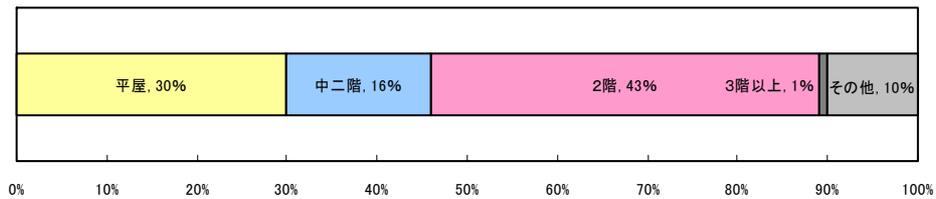
構造別建物分布図

### 4.3 階数別建物分布

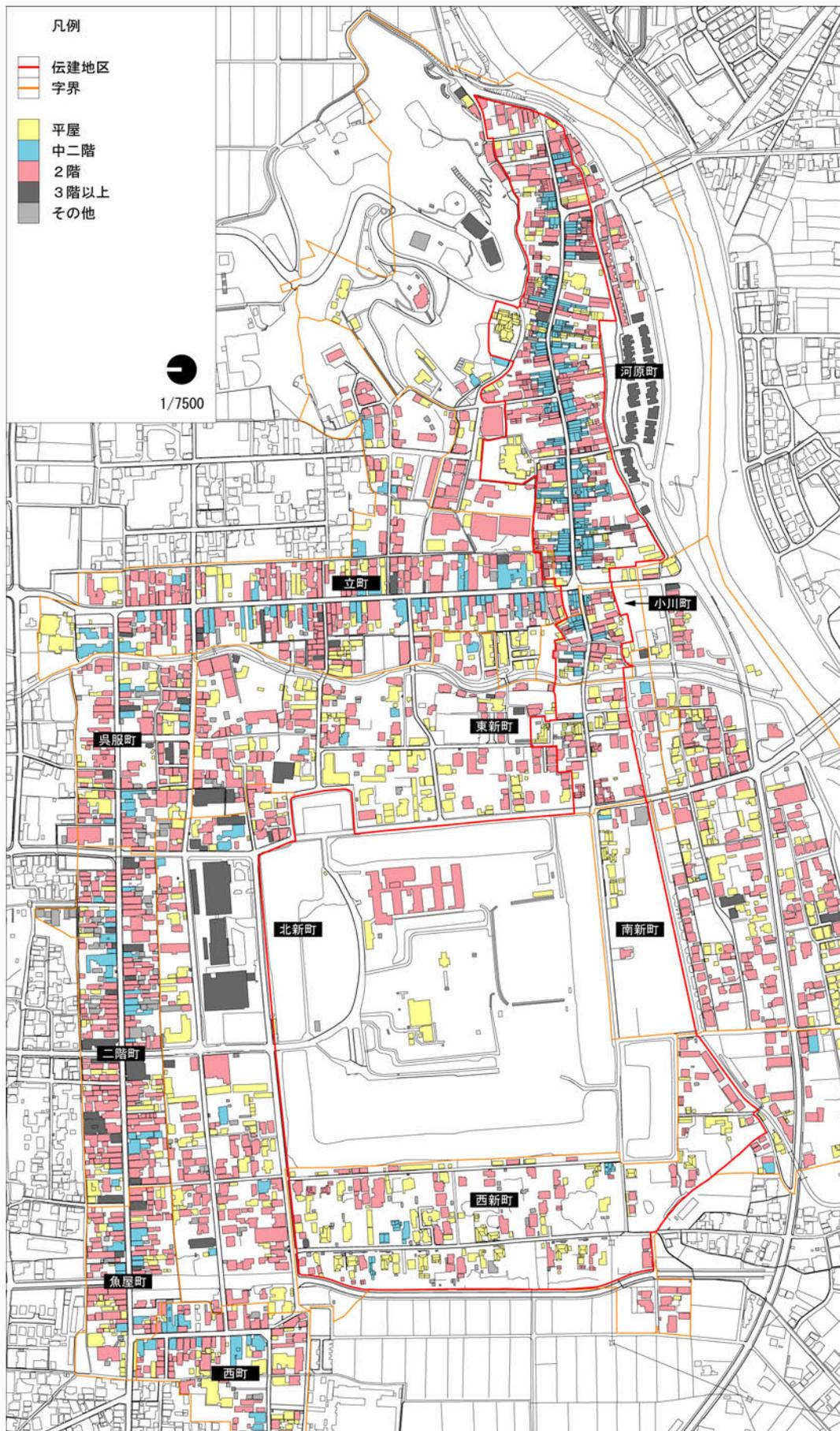
構造別に建物の分布を見ると、城下町全体は大部分が2階以下の低層建物で構成されていることがわかる。

旧武家町では、外堀周辺に平屋の建物が多く分布し、旧黒岡川以南では一般的な2階建ての建物が多い。一方、北新町に集まる公共施設の多くは3階以上の建物となっており、他にも3階以上の建物は、東新町に立地する業務施設や篠山山南線周辺で数軒確認できる。

旧商家町では多くが中二階や本二階の建物で構成され、中でも河原町では伝統的な中二階の家屋が多数見られる。一方、3階以上の建物も各町に点在するが、二階町周辺において多数の分布が確認できる。



伝建地区内における階数別建物構成比率



階数別建物分布図

## 4.4 伝統的建造物分布

地区内には江戸期から昭和戦前期にかけて建てられた伝統的な建造物が多数存在し、建築物は 241 件、工作物は 69 件ある。その内、平成 19 年 12 月現在で伝統的建造物として保存計画に特定されている建築物(特定物件)は 192 件、工作物は 63 件ある。

旧武家町では、西新町御徒士町通を中心に、茅葺の武家屋敷が 16 棟現存している。

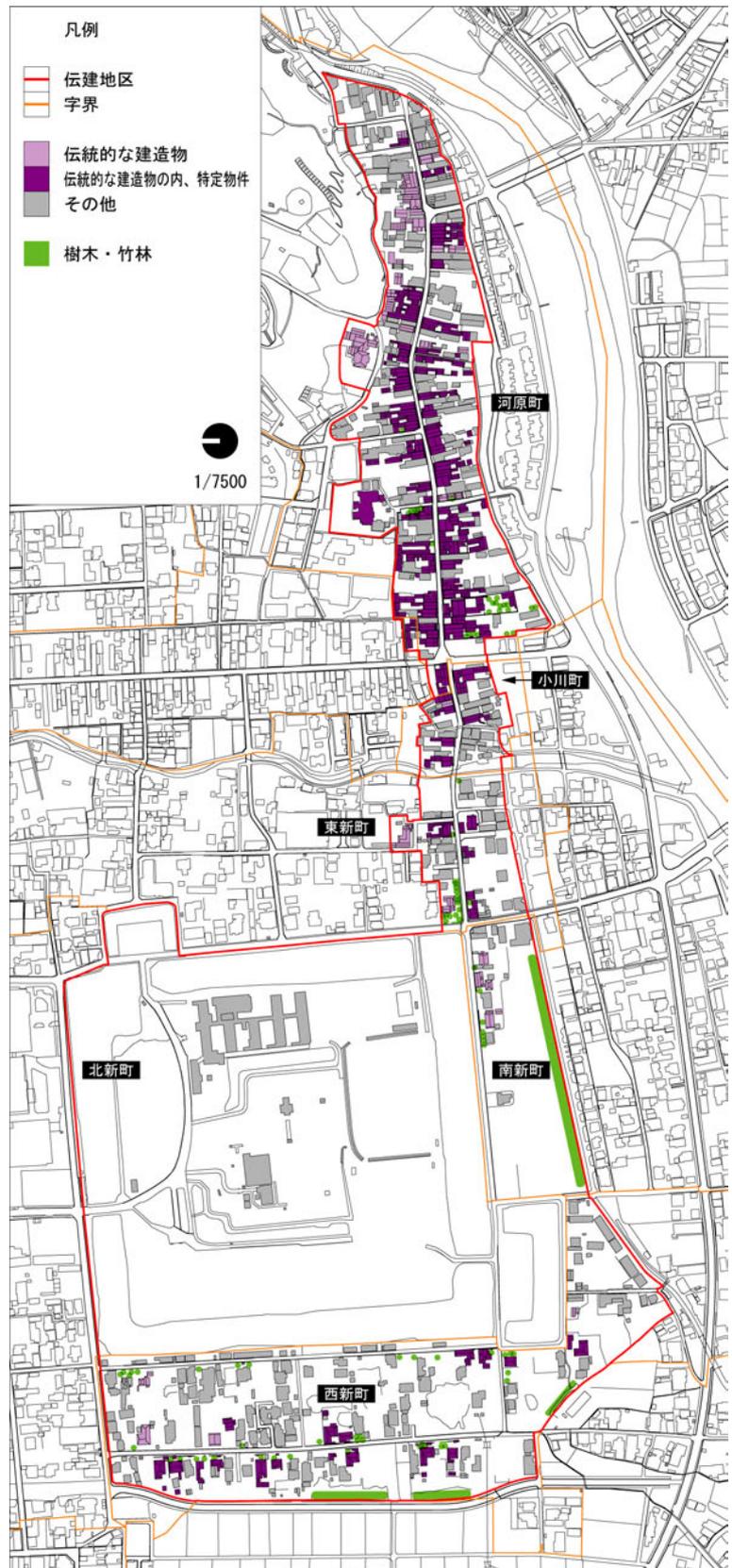
御徒士町は築城時の町割により設けられた町で、南北 450m の道の両側に現在も茅葺の家屋が 10 軒現存する。各家の禄高は概ね、高数石から 10 石前後で、徒士階層の武士が居住した。各家屋の敷地の間口は 8 間前後(約 16m)が多く、奥行は 25 間前後(約 50m)ある。なお、各住宅の多くは天保元年(1830)に発生した大火後に建築されたと伝えられている。

旧商家町では、伝統的な瓦葺の町家が河原町を中心に高密度に現存している。

河原町は篠山城下町の東南端に位置する篠山川に沿った細長い町で、東半分を上河原町、西半分を下河原町と呼ぶ。河原町の東端には南に折れる道が付き京口と呼ばれ、京街道(近世山陰道)の城下町への入口に当たる。また、河原町の西端は北に折れ、立町の南端とつながり、河原町の西には小川町が位置している。

河原町には約 500m の通りに沿って、およそ 140 戸の妻入を主とする町家が並ぶ。通りは直線ではなく、全体が見通せないように途中 3ヶ所でわずかに屈折し、町並みに絶妙な変化を与える。

また、小川町は約 100m の通りに沿って、およそ 20 軒の町家が並ぶ。河原町同様、通りは途中で屈折し、こちらも町全体を見通せなくなっている。



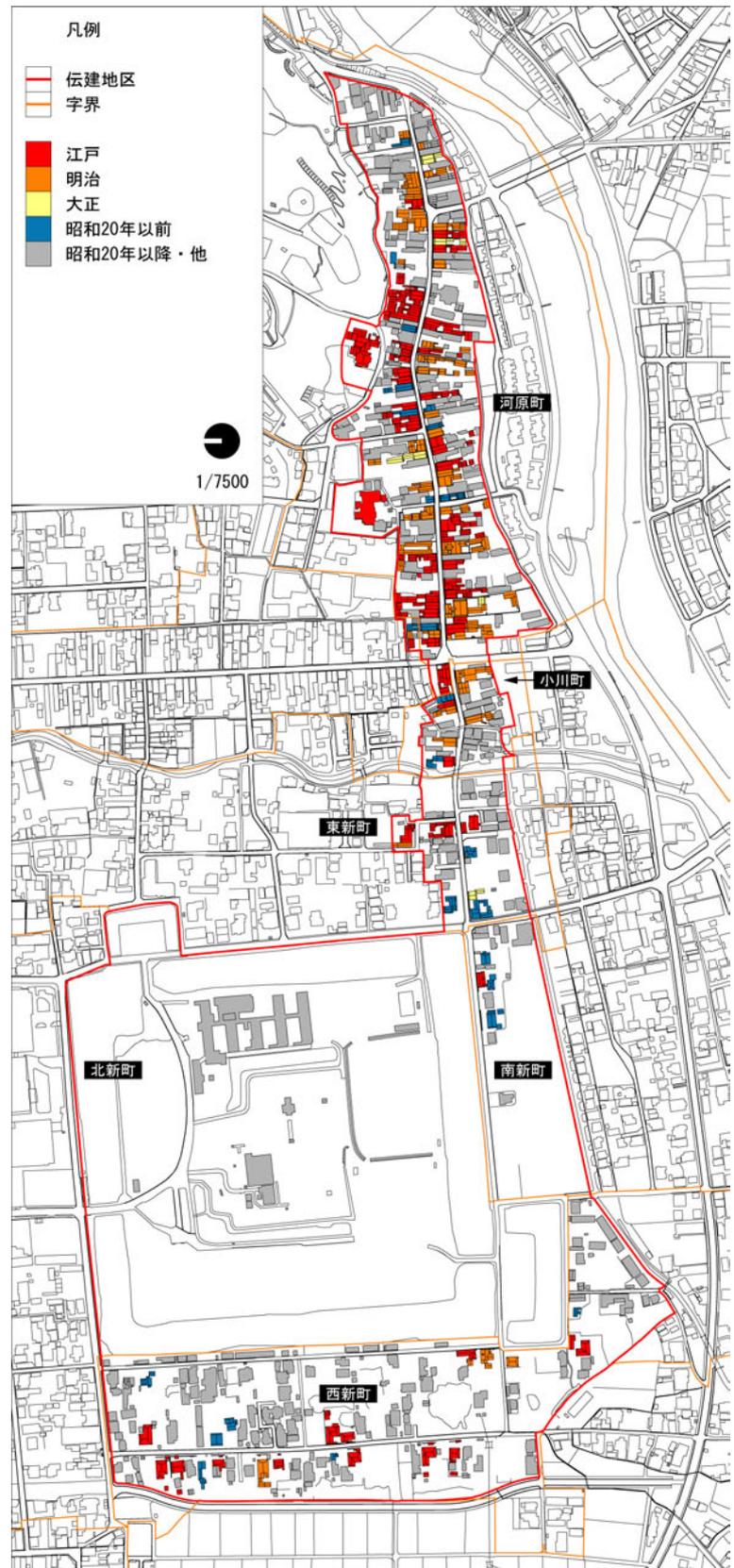
伝統的建造物分布図

## 4.5 建築年代別建物分布

地区内の伝統的建造物の多くは江戸から明治期に建てられたものが多い。

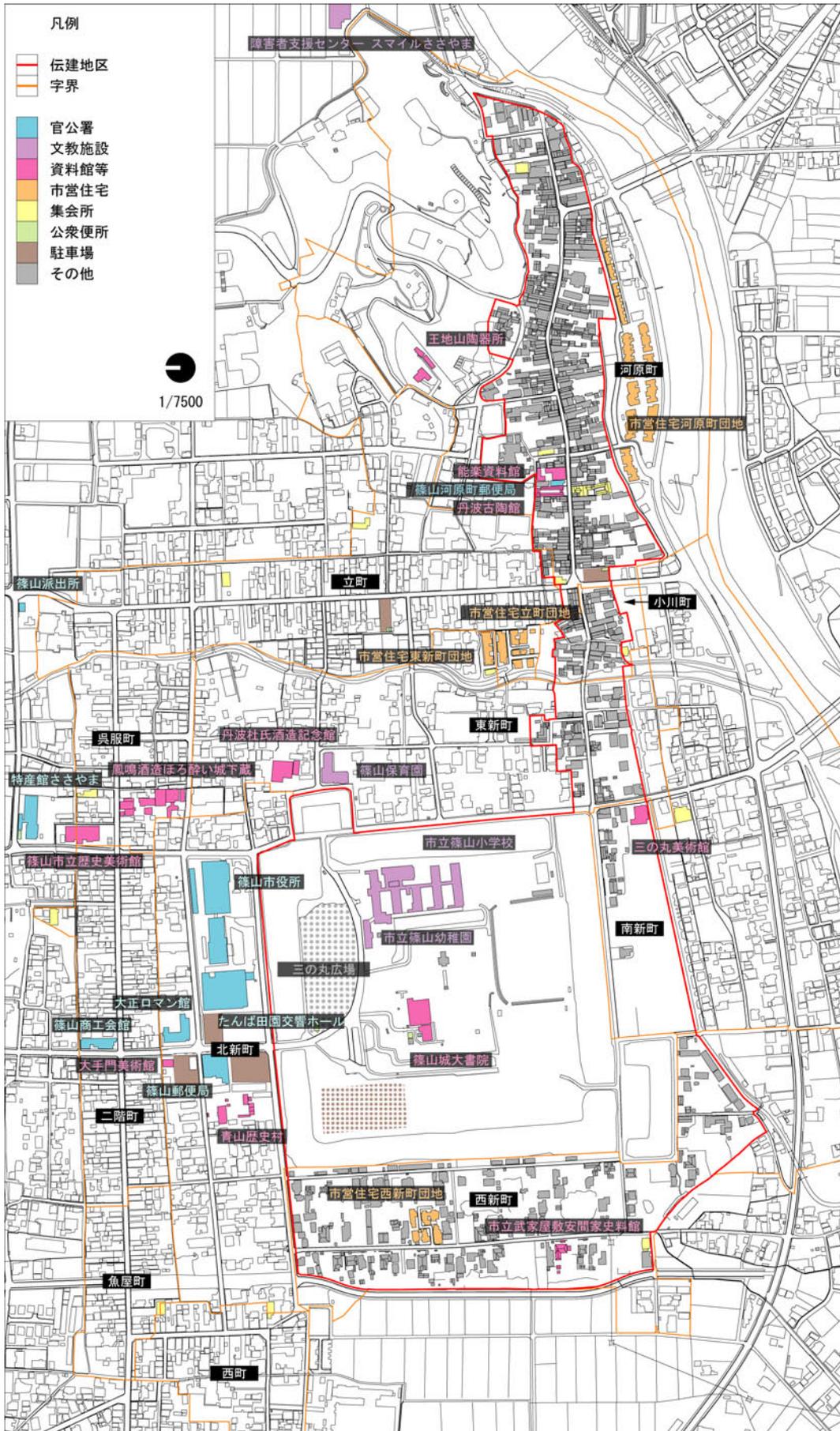
旧武家町では、西新町御徒士町通を中心に、江戸期からの武家屋敷が多数現存している。一方西新町堀端や西新町南馬出以南、東新町には昭和戦後に建てられた建物が多い。

旧商家町では、江戸期から明治にかけての伝統的な町家が高密に現存している。



建築年代別建物分布図





公共公益施設分布図

## 4.7 道路幅員

伝建地区内を通る道路については、その多くが城下町建設時からのもので、伝統的な街路空間を今日に伝えている。

河原町を東西に貫き、そのまま西新町へと続く幹線道路は、多くが5m前後の幅員だが、一部4mを割り込む部分もある。

河原町では各宅地の裏側に、この幹線道路と平行した生活道路が通る。この道路により、商家町の細長い敷地に対し、2方向避難が確保されている。しかし、これら道路の幅員は4mを割り込む狭隘なものも多く、中には2m以下の部分もある。

なお、消防署から地区への想定進入ルートは、藍物橋及び京口橋を通る2ルートが考えられる。藍物橋の道路幅員は9.0m、京口橋の道路幅員は6.0m確保され、消防車等の進入に支障はない。

道路現況写真



消防署からの想定進入ルート



西 A



西 B



西 C



西 D



西 E



西 F



西 G



西 H



東 A



東 B



小 A



下 A



下 B



下 C



下 D



下 E



上 A



上 B



上 C



上 D



上 E



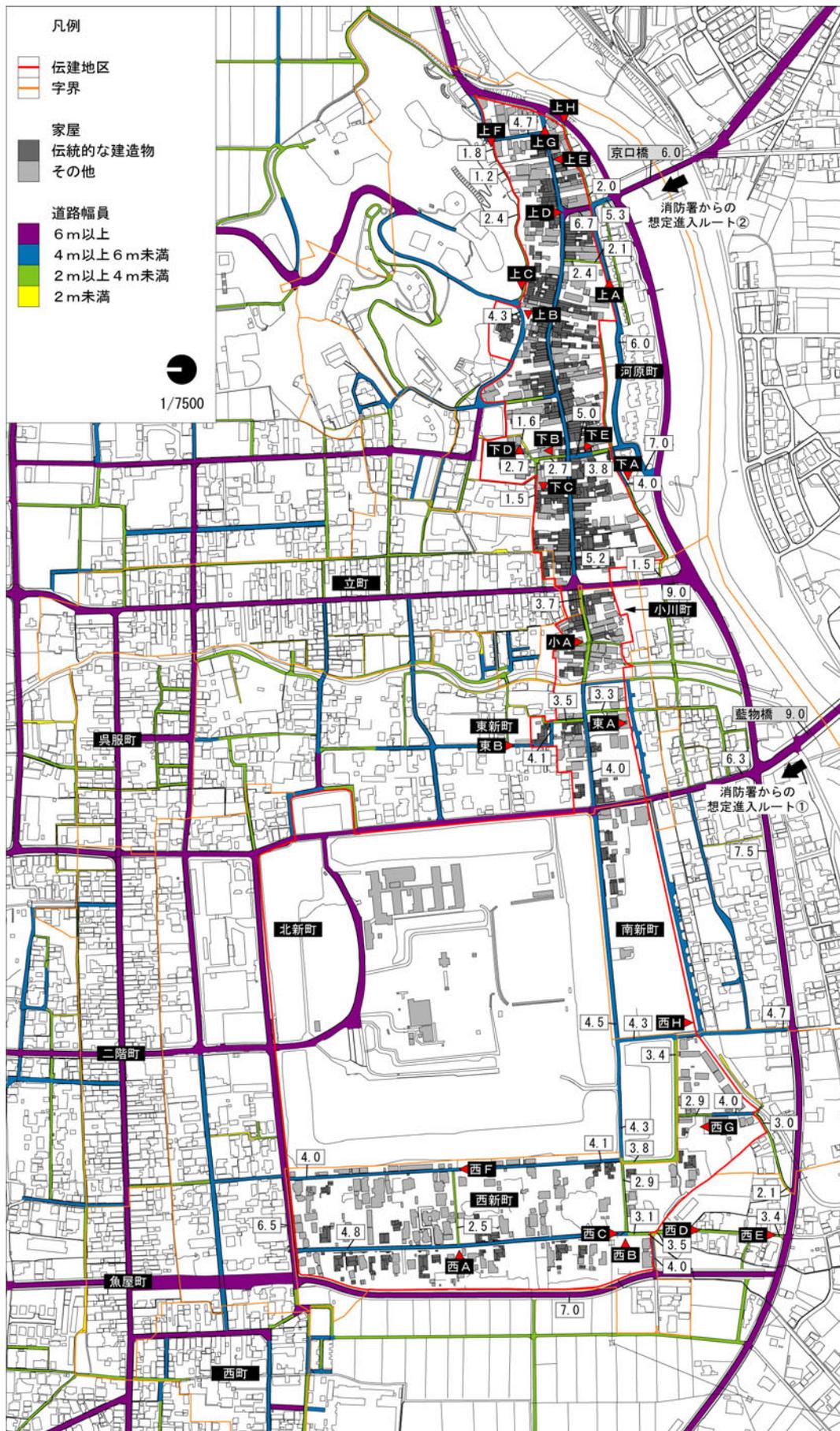
上 F



上 G



上 H



道路幅員現況図

注：伝建地区内道路幅員は現地における実測値を記した。

## 4.8 水利環境

伝建地区内外において、緊急時の水利になりうる水源として篠山川、黒岡川、篠山城外堀や水路が分布する。

篠山川は常時豊富な水量があり、大規模火災等の緊急時における巨大水利として考えることができ、黒岡川は通常時の水量は少ないものの、非常時における水源としては十分に期待できる。

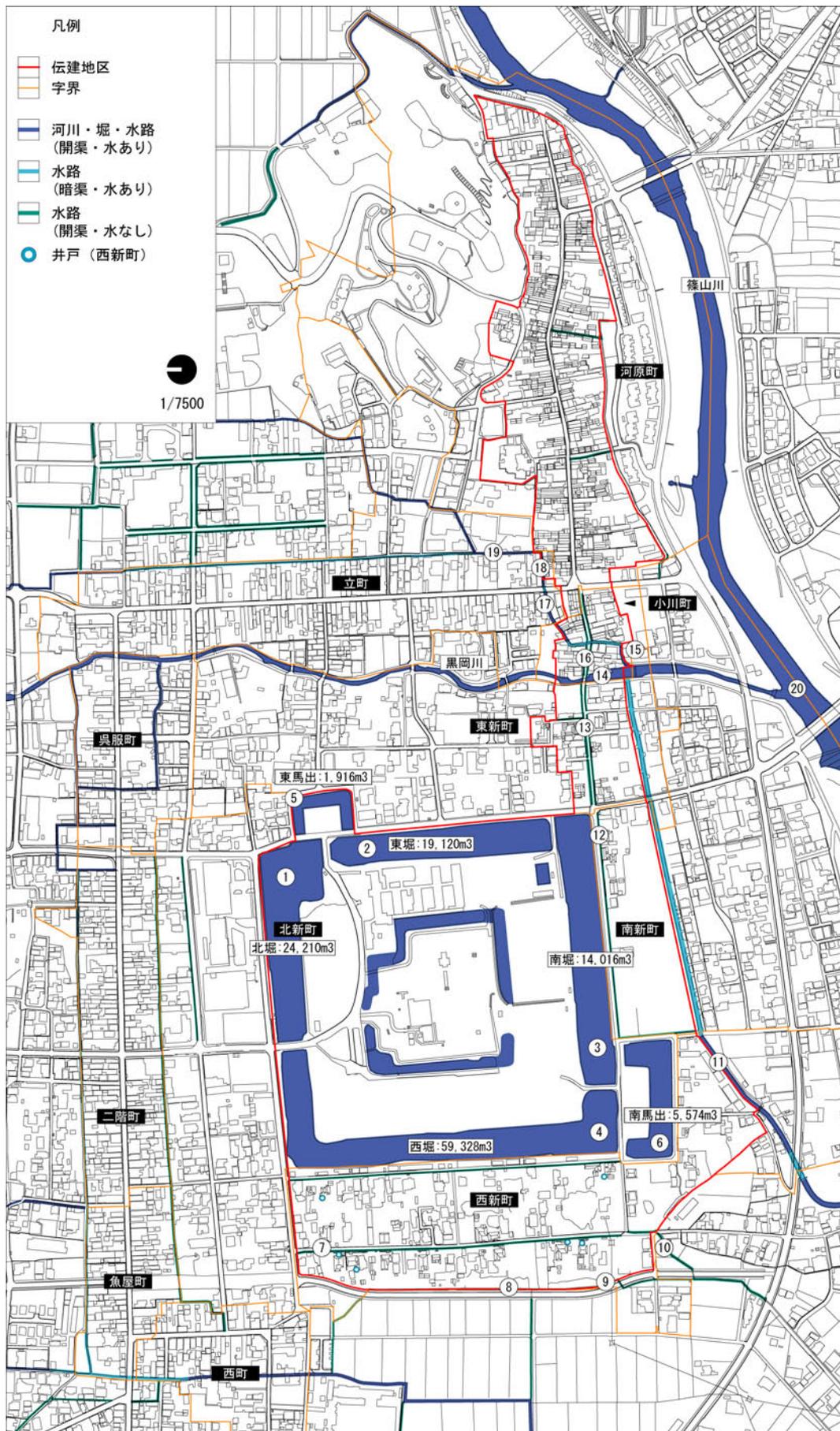
篠山城外堀は北堀、東堀、西堀、南堀、東馬出、南馬出がある。それぞれの貯水量は北堀約 24,210m<sup>3</sup> (面積約 12,105 m<sup>2</sup>、水深約 2m,)、東堀約 19,120m<sup>3</sup> (面積約 9,650 m<sup>2</sup>、水深約 2m,)、西堀約 59,328m<sup>3</sup> (面積約 19,776 m<sup>2</sup>、水深約 3m,)、南堀約 14,016m<sup>3</sup> (面積約 14,016 m<sup>2</sup>、水深約 1m,)、東馬出約 1,916m<sup>3</sup> (面積約 1,916 m<sup>2</sup>、水深約 1m,)、南馬出約 5,574m<sup>3</sup> (面積約 5,574 m<sup>2</sup>、水深約 1m,) である。

地区内外には、江戸期以来の水路が現存する。しかし、多くが雨水を排水するだけのものとなっており、通常は水が流れていない。さらに、後世の改変により水が流れないようにになっている箇所も見られ、大雨時には水路から水が溢れ出す箇所もある。また、江戸時代の城下町絵図に見られる水路の多くはコンクリートの三面張りに改修されていたり、道路整備により暗渠になっていたりもする。

西新町御徒士町では通りに沿って井戸が分布し、状態によっては、非常時の水利となる可能性がある。

水利環境現況写真





水利環境分布図

## 4.9 市有地分布

将来的な防災設備等の整備場所を検討するため、伝建地区内外の主な市有地の分布状況を調査した。旧武家町では地区内に御徒士町通入口、西堀端市有地、西新町南市営住宅、安間家史料館、西新町公民館、小林家長屋門北市有地があり、地区外には西新町市営住宅跡地がある。

旧商家町では地区内に下河原町銚山集会所、河原町市営駐車場、鳳凰苑、上河原町集会所があり、地区外には王地山公園、王地山陶器所、河原町市営住宅がある。

### 市有地写真



西新町市営住宅跡地



御徒士町通入口



西新町南市営住宅



西堀端市有地



西新町公民館



小林家長屋門北市有地



河原町市営駐車場



下河原町銚山集会所



鳳凰苑（公園）



河原町市営住宅



王地山陶器所



王地山公園



上河原町集会所

## 4.10 消防設備分布

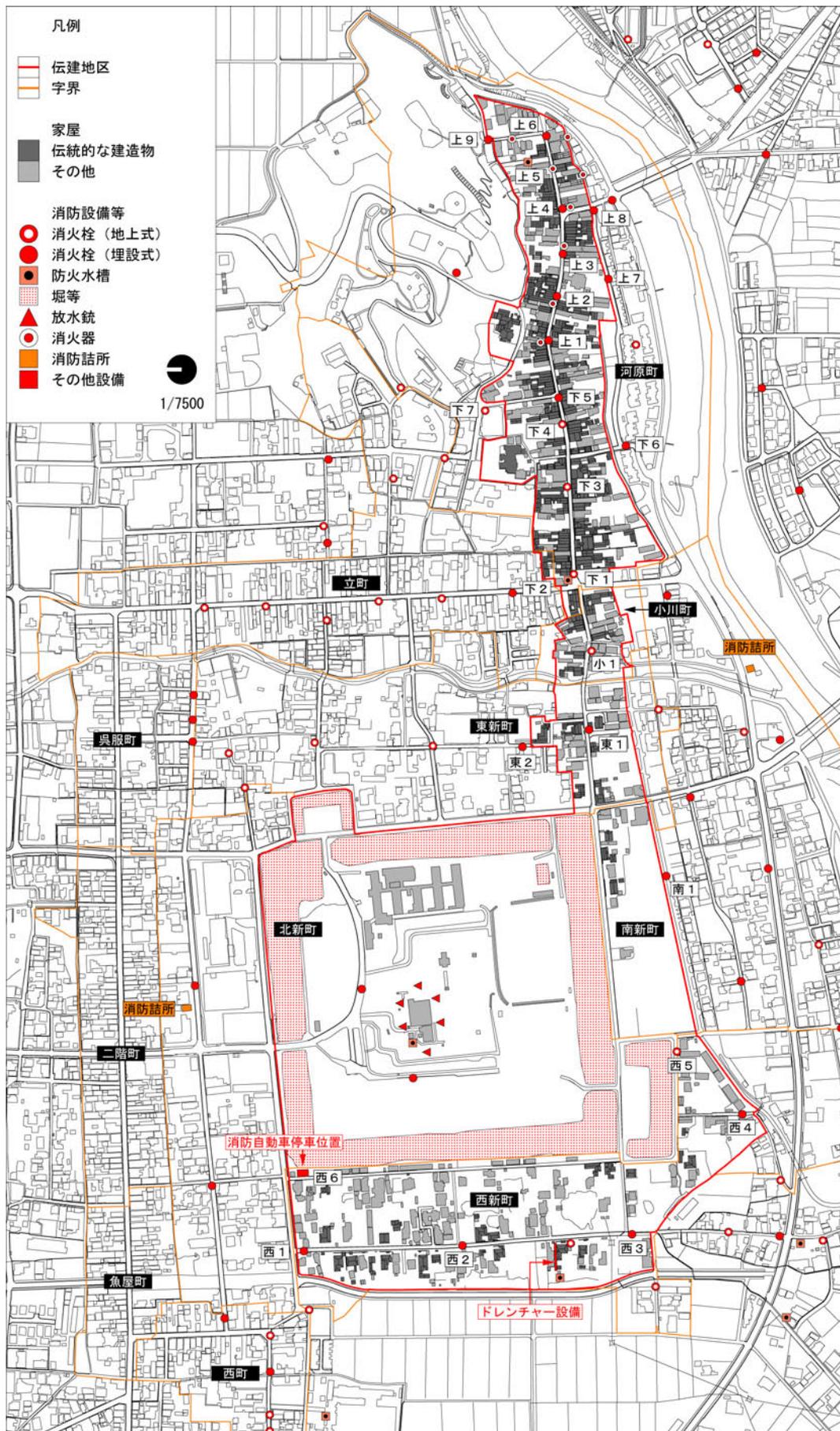
伝建地区内にある消防水利の種別として、消火栓（地上式・埋設式）、防火水槽、篠山城跡の堀などや篠山小学校プールがある。

旧商家町については街なみ環境整備事業に合わせた整備などにより、消火栓や防火水槽がきめ細かく設置されているが、旧武家町については、数や密度が乏しく、堀端では消火栓が未整備である。

自然水利である篠山城跡の外堀であるが、北、東、南面においては、いずれの場所からも利用可能だが、西面においては水利と隣接道路との間に宅地を挟むため、利用可能な場所は限定され、かつ消防車両駐車場所となっているところと水面との高低差がかなりある。

各町において、消火栓に対応してホース格納庫が設置されている（上河原町の一部において、近くの消火栓と共同としているケースも見られる）。なお、上河原町においては、町内で自主的に消火器の設置を行っている。

地区内の公開施設である武家屋敷安間家史料館では貯水槽（24m<sup>3</sup>）、自動火災報知設備、スプリンクラー、屋外消火栓（1号消火栓、1台）、ドレンチャー、炎感知器（2ヶ所）、消火器を備える。また、大書院では貯水槽（150m<sup>3</sup>）、自動火災報知設備、屋内消火栓（2号消火栓、5台）、炎感知器（16ヶ所）、防雷設備、放水銃（6基）、屋外消火栓（1基）、消火器を備える。



消防設備分布図

消防設備写真

西 1 消火栓 (埋設式)



西 2 消火栓 (埋設式)



西 3 消火栓 (埋設式)



西 4 消火栓 (埋設式)



西 5 消火栓 (地上式)



西 6 消防自動車停止位置



南 1 消火栓 (埋設式)



東 1 消火栓 (埋設式)



東 2 消火栓 (埋設式)



小 1 消火栓 (地上式)



下 1 消火栓 (地上式)



下 2 防火水槽 (40m3)



下 3 消火栓 (地上式)



下 4 消火栓 (地上式)



下 5 消火栓 (埋設式)



下 6 消火栓 (埋設式)



下 7 消火栓 (地上式)



上 1 消火栓 (埋設式)



上 2 消火栓 (埋設式)



上 3 消火栓 (埋設式)



上 4 消火栓 (埋設式)



上 5 防火水槽 (40m3)



上 6 消火栓 (埋設式)



上 7 消火栓 (埋設式)



上8 消火栓（埋設式）



上9 消火栓（埋設式）



上河原町消火器



安間家史料館消防設備写真  
貯水槽・ポンプ室（24m3）



自動火災報知設備



スプリンクラー



屋外消火栓（1号消火栓、1台）



ドレンチャー



炎感知器（2ヶ所）



消火器



大書院消防設備写真  
貯水槽・ポンプ室（150m3）



自動火災報知設備



屋内消火栓（2号消火栓、5台）



炎感知器（16ヶ所）



防雷設備



放水銃（6基）



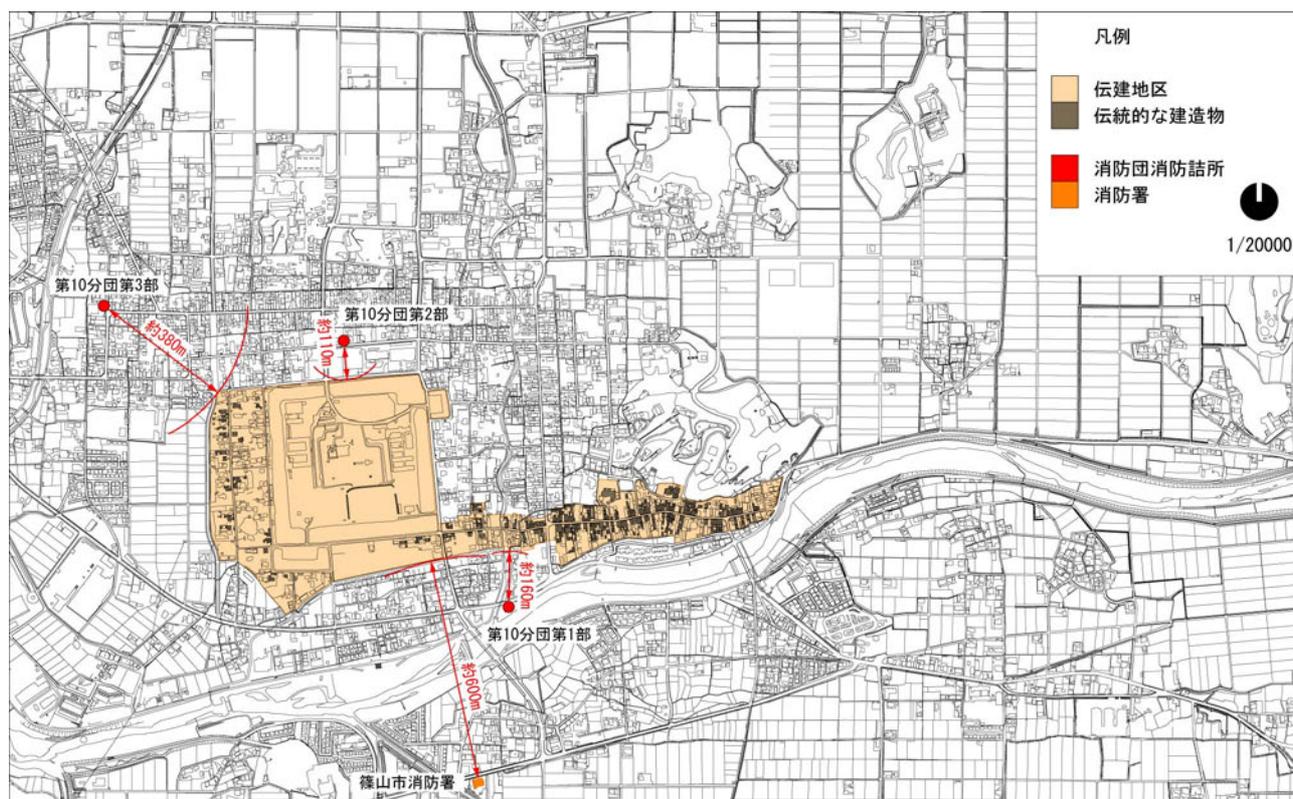
屋外消火栓（1基）



消火器



## 4.11 消防署及び消防団詰所分布



消防署・消防団消防詰所分布図

篠山地区における消防団（篠山市消防団第10分団[篠山]）は3部組織されている。なお、大規模災害の場合は、第7分団（八上）、第8分団（畑）、第9分団（城北）、第11分団（岡野）から応援が想定されている。なお、消火栓・防火水槽等の設置については、篠山市消防施設整備事業実施要綱に基づき、地元協力金を得ながら進めている。（防火水槽 1/3、消火栓設置 2/10、消火栓用具 4/10）



### 篠山市消防本部 （北 40-2）

車両：水槽付消防ポンプ自動車1台 化学消防自動車1台 救急自動車3台 指揮車1台  
救助工作車1台 広報車1台 指令車1台 災害対応特殊消防ポンプ自動車1台 計10台  
人員：64名



### 第10分団第1部 （南新町 174-1）

構成地区：上河原町・下河原町・小川町・上立町・東新町・南新町  
人員：幹部3名 団員18名 車両：タンク車1台(2t)



### 第10分団第2部 （北新町 97）

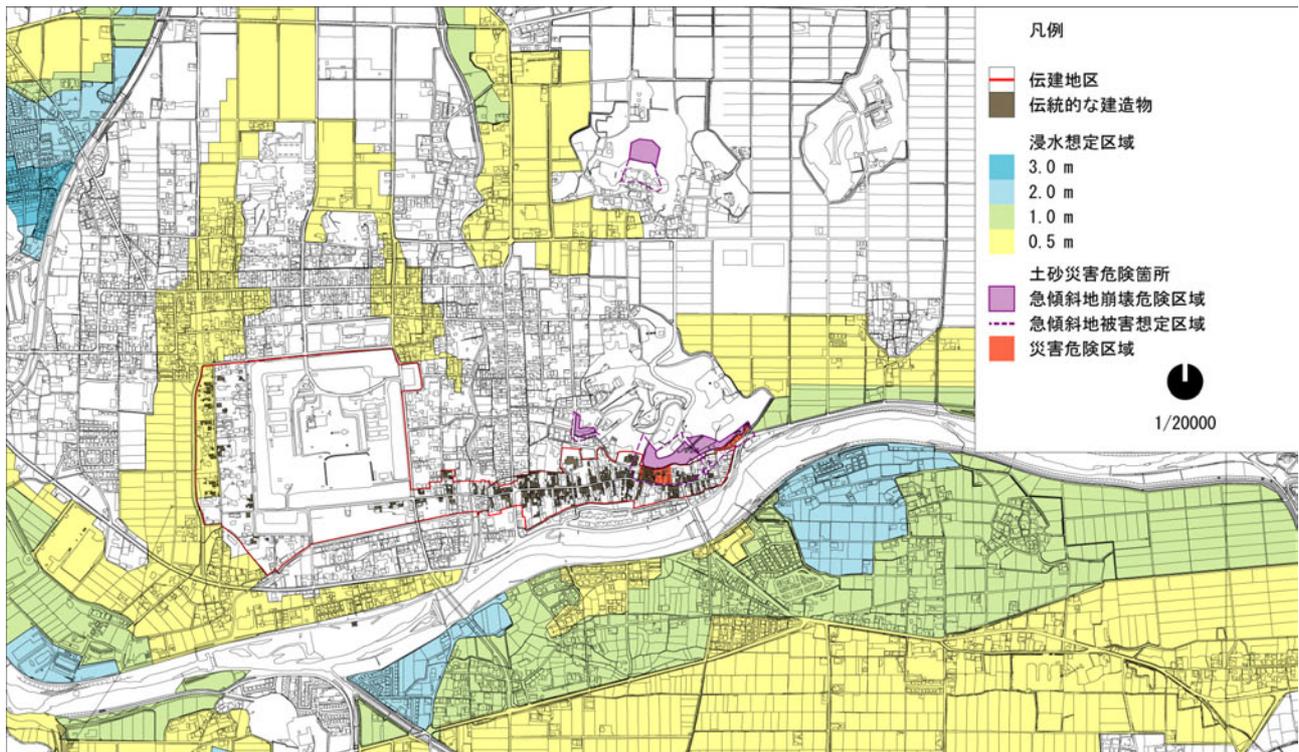
構成地区：下立町・呉服町・上二階町・下二階町・山内町  
人員：幹部3名 団員18名 車両：タンク車1台(2t)



### 第10分団第3部 （乾新町 70-1）

構成地区：北新町・魚屋町・上西町・下西町・西新町・乾新町  
人員：幹部3名 団員19名 車両：タンク車1台(2t)

## 4.12 浸水想定区域及び急傾斜地崩壊危険区域



浸水想定区域及び急傾斜地崩壊危険区域図

参考：篠山市『篠山市防災ガイド』（2007年）

地区内の浸水想定区域（篠山川で100年に1回程度、その他の河川で10～50年に1回程度起こりうる大雨を想定）として西新町の一部（御徒士町西側）が指定されている。ただし、この想定区域は、水路などからの氾濫や想定を超える大雨などによる浸水は考慮されていないため、地図上に着色されていない地域においても浸水する場合や停電、交通障害が発生する可能性がある。

篠山川や黒岡川、新黒岡川の河川改修や河原町や西新町における街なみ環境整備事業や街路事業の実施により側溝等が改修され、過去よりは浸水の恐れは低くなっているものの、南新町、東新町、小川町などでは側溝が未改修であり、想定以上の大雨時に水路から雨水がオーバーフローし、浸水するケースも見られる。また、度重なる道路改修によって、路盤が敷地よりも高くなり、雨水が敷地内に進入するケースも見られる。

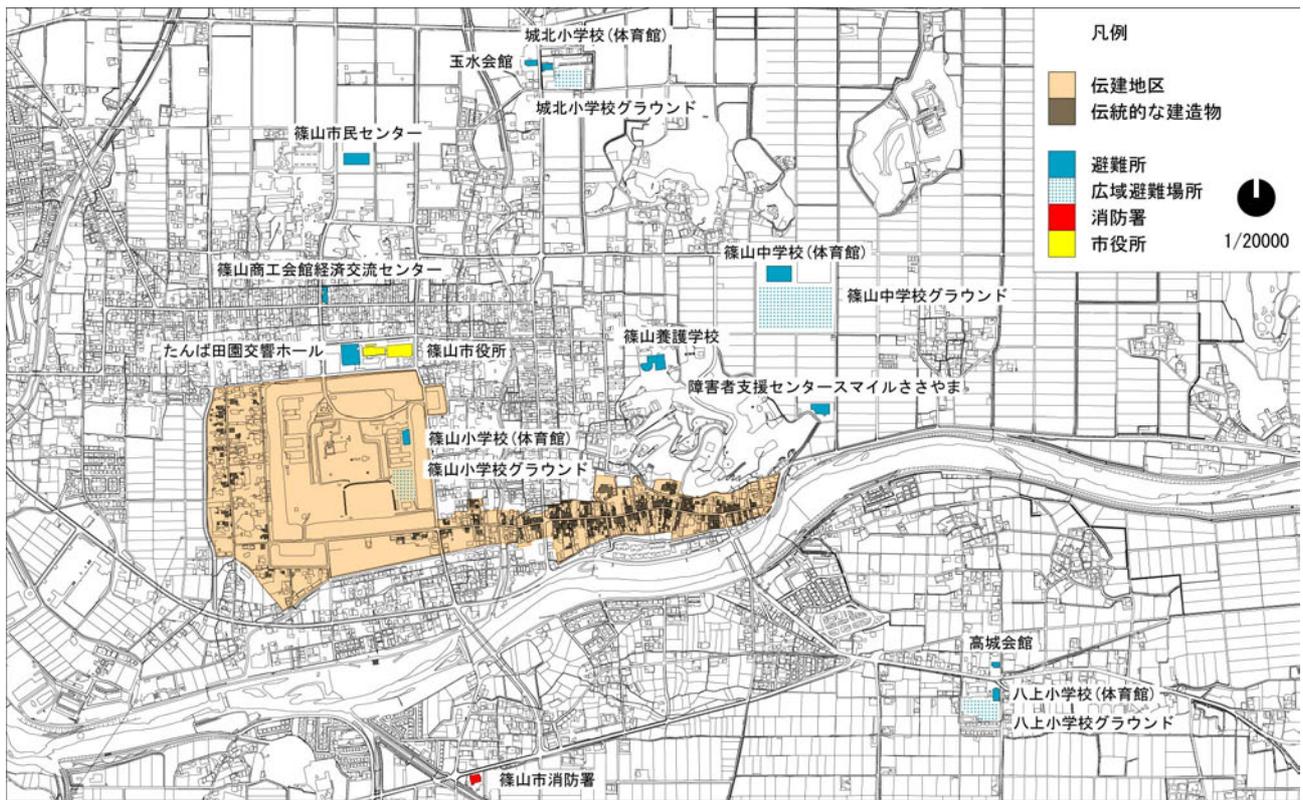
篠山城の外堀については、大雨の際など浸水の恐れがある場合、調整弁を解放し、篠山川に放水する措置が執られている。

土砂災害危険箇所として、河原町において、地区に隣接している王地山の一部が「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づき急傾斜地崩壊危険区域に、また王地山と上河原町の一部が急傾斜地被害想定区域に、さらに上河原町の一部が「建築基準法」に基づき災害危険区域に指定されている。なお、急傾斜地崩壊危険区域となっている王地山の南斜面は擁壁工事が実施されている。



急傾斜地崩壊危険区域に指定されている王地山南斜面の現状

#### 4.13 避難所及び広域避難場所分布



避難所及び広域避難場所分布図

伝建地区内外にある収容避難所として、篠山小学校（収容可能人員 200 人）、たんば田園交響ホール（300 人）、篠山商工会館（100 人）、篠山市障害者総合支援センター スマイルささやま（300 人）、篠山中学校（300 人）、篠山養護学校（150 人）、篠山市民センター（400 人）、高城会館（50 人）、八上小学校（150 人）がある。

また、広域避難場所として、篠山中学校グラウンド（18,324 ㎡）、篠山小学校グラウンド（6,448 ㎡）がある。

なお、伝建地区内各所から、これらの避難所および広域避難場所への経路は、地区内の幹線道路、城東線、中央線等となり、通常時の通行路として十分確保されているものの、風水害などの非常時に道路冠水などが起こった場合は、避難に支障が生じる場合が想定される。



篠山小学校（体育館）



たんば田園交響ホール



篠山商工会館



篠山市障害者総合支援センター



篠山市民センター



篠山養護学校



篠山小学校（グラウンド）



篠山中学校（グラウンド）

